

2027年度 岐阜県美術館アートコミュニケーター「～ながラー」

※ペンまたはボールペン(黒)を使用し、楷書で正確に記入してください。(フリクションなど消えるペンの使用は不可)
※一度提出された応募用紙は返却しません。
※ご記入いただいた個人情報、アートコミュニケーターの選考・運営に関すること以外には一切使用しません。

① 応募用紙

年 月 日現在

フリガナ

氏名

住所(〒)

生年月日 西暦 年 月 日生(歳)

連絡先 電話番号(携帯) 電話番号(自宅) メールアドレス(PC)

18歳未満の方は、保護者の方が同意の署名をしてください。アートコミュニケーター「～ながラー」への参加に同意します。

顔写真
4cm×3cm

※裏面に名前を記載

◆これまでの活動や、学歴・職歴、資格などをご記入ください。

期間(西暦)	活動、学歴・職歴など
年 月 ～ 年 月	
年 月 ～ 年 月	
年 月 ～ 年 月	
年 月 ～ 年 月	

資格など

◆あなたの興味・関心・経験などから、あなたをかたちづくる5つのキーワードを教えてください。

◆アートコミュニケーターの活動で、特に興味のある内容を1つ選んで○をつけてください。

	「～ながラー」による自主的な企画		地域に展開・発信していくプロジェクト
	美術館の所蔵品を活かしたワークショップ		アートやコミュニケーションに関する講座・研修
	その他()		

◆2次選考希望日を2027年2月5日(金)、2月6日(土)、2月7日(日)からお選びください。
詳細は、1次選考結果通知の際にお知らせします。所要時間は1時間程度を予定しています。

第1希望	第2希望	第3希望
2月 日() 午前・午後	2月 日() 午前・午後	2月 日() 午前・午後

◆岐阜県美術館ウェブサイト「アートコミュニケーター」のページを見て、印象に残った内容や活動について教えてください。

[確認事項]下記をご確認いただけたら、チェックを入れてください。
☐ インターネットにアクセスでき、パソコンなどでのメール送受信やweb会議ツール(Zoom)の使用が可能です。

② 返信用封筒 定形封筒(長形3号)に110円切手を貼付の上、宛先欄に応募者の郵便番号、住所、氏名を明記してください。

「～ながラー」になるには

岐阜ではじめる
アートコミュニケーション、
あなたもやってみませんか?

応募条件

●館長メッセージを理解し、共感して活動できる方
●16歳以上の方※、日本語での日常会話ができる方
※2027年4月時点、ただし18歳未満は保護者の同意が必要
●美術または美術館に関心があり、アートやコミュニケーションについて積極的に学び、社会での活用につなげる意欲のある方

活動場所

岐阜県美術館など

スケジュール

応募受付期間
2026年11月1日(回)～2027年1月8日(金)消印有効
1次選考:書類審査
※選考結果は2027年1月下旬に郵送にて応募者全員にお知らせします。
2次選考:面接
2027年2月5日(金)～7日(回)のいずれか1日
※所要時間は1時間ほどです。日時は後日連絡します。
選考結果発表
2027年2月下旬に2次選考対象者全員に郵送にてお知らせします。

アクセス

●JR東海道線 JR「岐阜駅」下車 → タクシーまたは岐阜バス JR「西岐阜駅」下車 → 徒歩で15分(名古屋駅から西岐阜駅まで約25分)
岐阜羽島インターチェンジから県庁方面に向かって北進約10km
●東海北陸自動車道 岐阜各務原インターチェンジから国道21号線を西進約10km
●東海環状自動車道 岐阜インターチェンジから県道77号線を南進約10km
無料駐車場あり
※駐車場については岐阜県美術館webサイトをご確認ください

応募書類郵送先

〒500-8368 岐阜県岐阜市宇佐4-1-22
岐阜県美術館 アートコミュニケーター募集担当 宛
※一度提出された応募用紙等の書類は返却いたしません。
※応募者の個人情報は、アートコミュニケーターの選考・運営に関すること以外には一切使用しません。

活動のやくそく

1.アートコミュニケーターの活動は無償です。
2.交通費、謝礼等の支給はありません。ただし、講座及び随時開催される研修に無料で参加できます。
3.アートコミュニケーターの登録期間は最長3年間で、年度ごとに更新します。(2027年度の活動は2028年3月末日まで)
次年度以降は本人と岐阜県美術館が双方合意のうえで登録更新をします。

お問い合わせ

岐阜県美術館
THE MUSEUM OF FINE ARTS, Gifu
〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22
Tel/058-271-1313 Fax/058-271-1315
https://kenbi.pref.gifu.lg.jp

岐阜県美術館
THE MUSEUM OF FINE ARTS, Gifu

2027年度 岐阜県美術館
アートコミュニケーターが変わります
ギフトルドン「～ながラー」
はじまります

「～ながラー」募集

美術館を拠点に、地域へ
美を楽しみ学びながら、
人と人のつながりをつくりながら、
社会にもつながりながら、
一緒に活動しませんか?

募集人数 20人程度

受付開始 2026年 11月1日(日) 締切 2027年 1月8日(金) 消印有効

「～ながラー」も知ろう!
出会う/楽しもう!
「舟フェス」

2026年 11月3日(火・祝) 10:30～12:00
会場/岐阜県美術館
「～ながラー」が企画!さまざまな人とつながりながら、
美術館を楽しむイベントです。
詳細は岐阜県美術館
ウェブサイトをチェック!

館長メッセージ

ギフトルドン「～ながラー」

岐阜県美術館の新たなプロジェクト「ギフトルドン」が始まりました。「ギフトルドン」の活動は2032年の開館50周年に向けて、美術館の資源やアートの持つ力を活かし、産業や福祉、教育など社会を支える分野につなげ、美術館から新たな価値を生み出していく「次世代美術館」を形にしていきたいと思います。
2015年に「アートまるマーケット」が始まり、従来の美術館展示に捉われず、あらたな美の楽しみの場の創出を行ってきました。2016年には、美術館のコンセプトフレーズ「ナンヤローネ」が、美術館をより多くの多様な人々に楽しんでもらおうというメッセージを込めてスタートしました。そして、その活動を美術館とともに展開するプレイヤーとしてアートコミュニケーター「～ながラー」が誕生しました。
「～ながラー」は2026年で7年目になりました。一昨年から東京藝術大学と連携して文化的拠点を実践する文化リンクワーカーの育成も、「～ながラー」を終了した者を中心に行っています。
このような流れの中で「ギフトルドン」も始まりました。そして、「～ながラー」もこれを機にあらたな習へと進化をしていきます。これまでより一層、社会でのつながりにフォーカスした活動を展開していきます。美を楽しむに止まらず、その楽しみを社会の課題に、地域の産業に活かしていくことを視野に入れて活動をしていきます。
8年目を迎える岐阜県美術館のアートコミュニケーター事業は、あらたなミッションのもとギフトルドンとともに「ギフトルドン～ながラー」としてスタートします。

～い～
岐阜県美術館長 日比野 克彦

「～ながラー」が「この舟のろう方式」で企画・制作した、
オンラインで楽しめるコンテンツを公開中!
美術館に対する思いや工夫が込められています。

「～ながラー」の活動
公開中!

「～ながラー」が「この舟のろう方式」で企画・制作した、
オンラインで楽しめるコンテンツを公開中!
美術館に対する思いや工夫が込められています。

ギョウトルドン「～ながラー」の活動イメージ

「～ながラー」になったら、アートと多様なひと・事柄を結び、地域をうるおすことを目指します。社会の中の課題を「自分ごと」として考え、美術館が取り組む活動や、自主的なグループ「舟」での活動に取り組みます。家や学校、職場とは違う、第三の場である美術館。さまざまな関心をもつ多様な人々と出会いながら、活動がスタートします！

アクセシビリティ

誰もが安心して美術館で過ごし、作品との出会いを楽しめるような活動をつくりだします。



美術館をより多くの人が楽しめる場にするため、アクセシビリティについて学び合いながら活動します。当事者や関係者の声に耳を傾け、誰もが安心して作品との出会いを楽しめる居場所づくりに取り組みます。

人びとと

アートや文化芸術を介して人々とのつながりを育み、来館者が美術館をより楽しめる活動をしています。



美術館を舞台にしたアイデアを持ち寄り、ミーティングを重ね、試行錯誤を繰り返しながら「舟」の活動を実践します。



ギョウトルドン

誰もが安心して楽しめる居場所にするために、健康・福祉に関わる活動など、美術館の事業と「～ながラー」が一緒に、地域の方と緩やかにつながりながらアートを軸にした活動をしします。

健康と(文化的処方)

一人ひとりが健康で自分らしく過ごせる体験や居場所をつくり、「豊かなつながり」づくりを進めています。(文化リンクワーカーとの連携)



・文化リンクワーカーによる文化的処方

地域と

アートや文化芸術を通して地域の人や団体とつながり、一緒に活動しながらよりよい関係づくりを進めます。



・こよみのよぶね



・明後日朝顔プロジェクト
地域のアートプロジェクトに参加し、アートコミュニケーターならではの関わり方を模索します。



学校と

美術館を学びの場として来館者がともに考え、活動する取り組みに伴走します。



子どもたちや来館者が美術館での体験を通して学びを深められるよう伴走しています。

「～ながラー」の活動

～〇〇しながラー、こんなことやってみた～

例えばこんなことに挑戦しました。

舟の活動

「こぐまのしろく丸」



小さなお子さまがいるご家族に、「美術館の楽しさ」を知ってもらうためのきっかけ作りをしたい。そんな思いから絵本の読み聞かせを導入とした館内ツアーを実施しました。会場のレイアウトや制作物、当日の流れなど、何度も議論を重ねて企画・運営をしました。

「～ながラー」の声

準備の段階からメンバーと多くのアイデアを出し合いながら企画を進めました。読み聞かせとさまざまな形のアート体験を通して、お子さんだけでなく大人の方にも楽しんでいただき、会場が笑顔に包まれる時間となりました。私たち自身も活動を楽しむことができました。(5期 S さん)

企画実施

「ふらっとおはなし丸」



「ふらっとば〜く：見る、触れる、話す、感じる、考える」展と連携して活動しました。展示室内で待機し、来館者が作品を観たときに考えたことや「誰かに話してみたい」という思いに寄り添い、一緒にお話をしながら鑑賞する活動を企画・運営しました。

「～ながラー」の声

この「舟」には、4期・5期・6期と期を越えてメンバーが集まり、何度も話し合いを重ねながら、いろいろな来館者の方にどうすれば心地よく過ごせて、かつ鑑賞を楽しんでいただけるか、みんなで考え準備を進めてきました。お話ししたい方、そうでない方、サポートが必要な方、ご不要な方それぞれが美術鑑賞を楽しめるように、「寄り添う」ってどういうことだろう？と、メンバーでじっくり考えることができたのは、とても有意義でありたい経験となりました。(4期 T さん)

団体鑑賞のファシリテーターや美術館イベントとの連携

岐阜県美術館に申し込まれた団体鑑賞にファシリテーターとして参加したり、美術館主催のイベントで来館者をお迎えしたり、開催する展覧会に合わせ、職員と協力して一緒に企画をつくることもあります。



3年目マイボート



任期満了を迎える年度に実施する「～ながラー」独自の自主プロジェクトです。終了後、自身のフィールドに戻ることを想定し、企画を一人あるいはグループで立案から始めて組立て、実施しました。

「～ながラー」の声

4期有志のメンバーは、3年目の活動として自分たちで鑑賞会を開催したいと考え、マイボートを企画しました。その前に、もう少しスキルを磨いたり、弱点を克服したりしながら、よりよい場づくりをめざして練習していこう！と思いました。今後も鑑賞方法を継承し、より安定的かつ継続的に対話型鑑賞を実施していきたいし、鑑賞者の方々にとって質の高い鑑賞会を提供できるよう、私たち自身も成長を重ねていきたいです。(4期 S さん)

美術館から、それぞれの活動へ出港！

3年後の3月には「～ながラー」の活動を終えて、美術館から出港して次のステップへ！もと居た場所や社会という広い海で、学んだことやそれぞれの創造力を発揮して活動をしていきます。

こんな活動をしている人もいます

- ・岐阜県文化リンクワーカー
- ・地域のアートコミュニケーターとしてアートイベントへの出展
- ・ワークショップの開催 など

③ 課題

館長メッセージを読んだうえで、課題「アートコミュニケーターに応募する動機と、その背景になっているあなたにとって重要な体験について」述べてください。美術館での体験でなくても構いません。

[書式] A4用紙片面1枚にまとめてください。

記載様式は自由ですが、2枚目以降の記載や、裏面への記載、規格外の用紙の使用は選考対象となりません。

また、ご自身で用意した用紙を使用する際は、必ず氏名を記入してください。

氏名



REDON × GIFU ART Project
ルドンと人と社会が一つになる活性化プロジェクト

アーティストや、美術館にまつわる人、岐阜にゆかりのある人々と出会い、創造とコミュニケーションの場をつくります。作品や人を通して社会とつながりながら、活動を広げていきます。